

# SHIN CLUB 301

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」 撮影：アック東京

## 今月のトーク/monthly talk

### 場所の特性を活かす

表参道駅から徒歩2分。「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」が、渋谷区神宮前に誕生しました。商業施設の賑わいと住宅街の落ち着いた雰囲気がミックスされたエリアに、新たな彩りが添えられました。

設計を担当したのは、場所の特性を活かした建物の設計に定評のある09.design | オクデザインの奥村政樹氏。今回は、商業施設をメインに手掛ける事業主からの要望に応じて、原宿・青山エリアの雰囲気を取り込みつつ、限られた面積のなかでテナント物件としての価値を高めるために、ボリュームの最大化に努めたと奥村氏は語ります。

「建物外観は割とコンパクトに見えますが、地下にも1層分のスペースがあり、1・2階部分と合わせて2つの店舗が入る十分なボリュームを確保しました。内装に関しては、テナント工事の際に仕上げていくため、壁材や天井材などは後から取り付けていくこととなります。そのためスケルトン状態での引き渡しになりますが、躯体に使用するコンクリート表面のつややかな質感やサッシの納まりなど、ディテールの部分には、こだわりをもって仕上げました。特別な装飾を施さずとも、そのままの状態ですら十分に満足して使っていただけるレベルに完成したと思っています」。

「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」が位置する「口ハス通り」は、表参道から1本入ったところにある、比較的道幅の狭い道路。

しかしながら、青山通りへと通り抜ける車両や人の往来が多く、通りにはたくさんの店舗が並んでいる人気のエリアです。そのため、工事に当たっては、綿密な施工計画が求められます。

「こうした難易度の高い工事においては、事業主・設計事務所・施工会社の緊密な協力と信頼関係は欠かせません。周辺住民の方々にご理解をいただきつつ、完成へのステップを着実に踏んでいくことが求められます。だからこそ、神宮前エリアに圧倒的なシェアと実績をもつ辰さんは、非常に頼りなるパートナーだと思いました。実は、辰さんとタッグを組んで工事に取り組んだのは、今回のプロジェクトが初めてではありません。独立する以前に所属していた早川邦彦建築研究室にて、当時の現場所長だった辰の岩本社長と、荻窪で「Tauto」というコーポラティブハウスの建設を協働しました。そのため、事業主の方から今回の建物の施工を辰さんをお願いしたと伺い、とても安心感がありましたね。本プロジェクトは、私と辰さんが15年ぶりに仕事をするきっかけを作ってくれた案件でもあり、非常に感慨深いものがありました」。(奥村氏)

数年間にわたって築かれてきた事業主と設計事務所との信頼関係に加え、設計者と施工会社との思わぬ再会が、3者の協力体制にさらなる厚みを加えました。

新しく生み出された「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」が、建物を利用する人たちの日々の営みを支え、通りを行き交う多くの人々の目を楽しませて、街にさらなる活気を与えていくでしょう。

THE CITY 表参道 LOHAS STREET



建物全景。ポケットパークのような余白を生んだデザイン

内外の雰囲気がいかににじみ出す空間

表参道駅から徒歩2分の「ロハス通り」に面した商業施設。テナントは2階と1階・地下1階部分にそれぞれ1店舗ずつ入る計画だが、建物全体で1つの店舗としても使用できるように、可変性のある空間構成とした。建物の1階は奥まで開放されており、ガラスで仕切られた上下階へと向かう階段を通して、訪れた人々を店舗へと誘う。

原宿エリア、青山エリアの双方へと行き交う人々で賑わう場所のため、自然と建物内部へと興味がひかれるよう、ガラスファサードとした。通りからは店舗の様子が、建物内部からは道行く人たちの雰囲気が相互に感じられる空間となるよう設計した。

建物が位置する「ロハス通り」は、道幅の割に交通量が多く、配置計画においては通行する人々に圧迫感を与えない配慮が求められた。通りに面して建つ周囲の建物よりも、幾分セットバックさせることで、ポケットパークのような余白を生み出し、人の流れを引き込むことを意図している。さらにゲート状に軒を伸ばした「引きの空間」は、より懐の深いものとなり、訪れた人々を包み込むように迎え入れるだろう。

建物はスケルトンの状態での引き渡しとなる。内装はあくまでもテナント側の工事で行うことになるが、素材の質感やサッシの納まりには細部までこだわり、スケルトンの状態で使用しても映えるような空間に仕上げた。

照明計画では、建物正面の縁に沿ってライン照明を設置し、ファサード上部に浮かび上がる「THE CITY OMOTE-SANDO LOHAS STREET」のロゴとともに歩行者のアイキャッチとなるようにデザイン。

ファサードのアルミパネルは周囲となじみ過ぎず、かつ、ロハス通りのなかで特徴的な部分も出せる光沢感のあるパネルを採用した。日中はそれほど反射がなく、鈍く淡く光る質感が得られるよう、複数のサンプルを作成しながら検討を重ねた。夜になると周囲の照明とともに存在感を増していき、昼間とは別の表情を見せる。これは建物全体にも共通するデザインのコンセプトであり、大通りに展開する商業施設のきらびやかさとはまた違った、落ち着いた雰囲気のある洗練された雰囲気に仕上げることができた。

(株式会社09.design | オクデザイン / 奥村政樹氏 談)



建物夕景



道行く人の雰囲気を内部から感じる



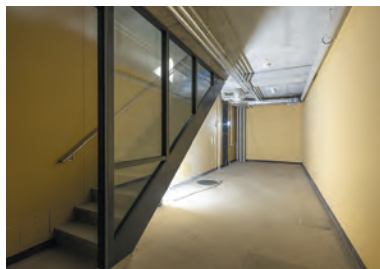
人の流れを内外から可視化



階段室



2階テナント内部



地下1階内部



窓から柔らかい光が差し込む



1階テナント内部

所在地：東京都渋谷区神宮前5-2-15  
 構造：RC造  
 規模：地下1階・地上2階  
 用途：店舗  
 設計：株式会社09.design | オクデザイン / 奥村 政樹  
 竣工：2024年12月  
 施工担当：伊藤・柴道 / 池上チーム  
 撮影：アック東京



# Masaki Okumura

今月は、「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」の設計者である、09.design | オクデザインの奥村政樹氏にお話を伺いました。

—奥村さんとは2010年に竣工した「Tauto（タウンハウス荻窪）」で一緒に以来、15年ぶりになりますね。

奥村：そうですね。独立する前に、早川邦彦建築研究室の一員として「Tauto」の設計を担当させていただきました。そのときの施工会社が辰さんと、社長の岩本さんは当時、所長のポジションで現場に入られていました。年齢は私より少し上ではあるものの、ほぼ同世代で2人ともまだ30歳前後でした。当時を思い返すと懐かしい気持ちになりますね。月日が流れる早さを改めて実感します。その後、岩本さんは社長になられ、私も独立して設計事務所を構えました。置かれている立場や状況は変化しましたが、再び一緒に仕事ができたことをうれしく思っています。

—当時の仕事がきっかけとなり、今回のプロジェクトへとつながったのでしょうか。

奥村：いえ、本当に偶然の結果です。「THE CITY 表参道 LOHAS STREET」の工事に当たっては、事業主の方が辰さんを指名されました。設計者が私であることを知った辰さんの方では、「設計を担当するのは、あの奥村さんですか。彼なら知っていますよ」という話になったと聞いています。私の方でも「あの岩本さんですか」と驚きました。久しぶりにお会いした岩本さんでしたが、「奥村さんは、相変わらず細かい」と、おそらく社員のみなさんとお話されていたのではないかと思います（笑）ある意味、物事に細かいのは設計者の性分であり、簡単に変化するものではないですからね。

—当時の奥村さんの師匠である早川先生もストイックにディテールを追求していましたね。独立前はずっと早川邦彦建築研究室で働いていたのですか。

奥村：はじめは、私の母校である愛知産業大学の造形学部建築学科で教鞭を取られていた、山田雅美先生の主宰する建築研究所で経験を重ねました。東京でははじめに長木清さんにお世話になり、その後早川邦彦建築研究室に入所しました。

お三方からは、設計やデザインのテクニック以前に、生き方そのものを学びました。建築と向き合う姿勢はもちろんのこと、身につけるものにせよ口ににするものにせよ、生活のすべてに、こだわりをもって高いレベルを追求し、決して妥協はしない。そうした姿勢を強く感じました。2017年に独立してから現在に至るまで、「自分が完成させた建物をみなさんがご覧になったら、どう思われるだろう」と常に頭の片隅に置きつつ仕事に臨んでいます。

—そうなんですね。奥村さんは学生のときから建築に興味をもっていたのですか。

奥村：はい。高校生の頃から、街並みだったり、建物そのものや内装や家具にも関心がありました。当時はどこまでが建築の領域

なのかを明確に理解していたわけではなく、インテリアも含めた大きな枠組みでのデザインに興味があったのだと思います。そのような流れで、自然と大学では芸術・造形学部の建築学科で学びたいと思うようになりました。

その後、大学で建築を本格的に学び、学生の頃から山田先生の設計事務所に入り浸る生活を送っていました。

—学校での学びと実際の仕事との間にギャップを感じることはありませんでしたか。

奥村：設計の仕事については、学生時代から実際のプロジェクトに参加させてもらっており、おおよそのイメージはついていました。それほど大きなギャップは感じませんでした。

しかし、社会人になってすぐ、当時の上司から工事の近隣説明会に送り出され、そこで強烈な洗礼を受けたのを覚えています（笑）近隣説明会では、時に感情的に「あなたたちのせいで、うちの建物が影が落ちてしまう。どうしてくれるんですか」などの意見がありました。学生時代は「建築を通して世の中にすばらしい提案ができる」と考えていたところに、社会の現実を突きつけられたかたちです。おそらく、上司はあえて入社間もない新人である私を、そのような場に行かせたのだと思います。その効果は絶大でした。それからは、独りよがりにならないよう、問題点は一つひとつ解決していこうとより深く考えるようになりました。

—最後に、進行中のプロジェクトも含めた今後の展望をお聞かせください。

奥村：直近では駅のリニューアルをはじめとする公共施設や、商業施設など非住宅系の仕事を中心ですが、早川研出身のメンバーでチームを組み、コーポラティブハウスに取り組んだりもしています。どのようなプロジェクトにおいても、「人と人とのつながりが大切だ」と感じています。独立してからこれまでは、手掛けた仕事やまた新たな仕事へとつながり、ご縁と実績を積み重ねながら駆け抜けてきた7年間だったと思っています。今回の辰さんとのご縁も大事にして、また新たなチャレンジに取り組んでいきたいと考えていますね。

—奥村さんのこれまでの経緯を伺い、優れた設計を生み出すためのルーツと想いを知ることができました。本日はありがとうございました。

## 奥村 政樹（おくむら まさき）

1978年 大阪府生まれ  
 2001年 愛知産業大学造形学部建築学科 卒業  
 山田雅美建築研究所 山田雅美氏に師事  
 cord,早川邦彦建築研究室,atelier unisonを経て  
 2017年 09.design 設立  
 2018年 株式会社09.design

TOPICS/INFORMATION

SHIN CLUB300 号創刊記念イベント「SHIN CLUB」が開催されました 2025年3月13日(木)

— TRUNK(HOTEL) CAT STREET —

春の訪れを感じるような暖かな陽気となったこの日、SHIN CLUB300号創刊記念イベント「SHIN CLUB」が、渋谷区神宮前にある「TRUNK(HOTEL) CAT STREET」で開催されました。



会場には、開場の1時間前に社員が集合し、会場へ集合し、説明を受けるバックナンバーのパネルや受付、トークイベントなど会場設営をおこない、スタンバイ。



展示パネルの設営

い出話をしながら写真を撮られている姿が非常に印象的でした。

12:00 開場となり、展示スペースには、日頃よりご愛顧いただいておりますお客様や設計事務所、一般の方など多くの方がご来場され、バックナンバーを見て思



展示会にはたくさんの方がご来場

その後 15:00 より、田邊曜建築設計事務所の田邊曜氏、ツチャタケ建築事務所の土屋毅氏、AIGの安藤耕作氏と、弊社代表岩本によるトークセッションがスタート。



多くの方が参加したトークイベント

現在弊社で建設している現場の話や、過去に手掛けた計画のエピソードなど、時折笑いも交じりながら展開され、その様子は公式 Instagram「shinstagram」でもライブ配信されました。普段聞くことの少ない施工会社目線での現場の話ということもあり、多くの方々にご傾聴されて

トークイベント終了後は、会場を移し、招待制での創刊記念パーティーが開かれました。

岩本による代表あいさつで始まり、awnの北山恒氏による来賓あいさつ、木下道郎



インスタ LIVE で生配信



トーク中のゲスト3名と岩本

思い出話に花が咲きつつ、余興としておこなわれたお楽しみ抽選会では、当選者へ豪華景品が手渡されるなど、これまでにない特別なひとときとなりました。

最後は、ご出席いただきました皆様へ、本イベント限定のお手土産をお配りし



北山氏による来賓あいさつ

があつてこそだと思います。

また、本イベント開催のお声掛けをした際、ご出席していただける方々がこんなにもたくさんいらっしゃることは、弊社にとっても大変喜ばしく、心の支えとなりました。心より、深く御礼申し上げます。



最後はお見送り

ワークショップの木下道郎氏による乾杯のあいさつ、ご発声のあと、パーティーが開宴。

前回おこなわれた SHIN CLUB200 号創刊イベントがおよそ 8 年前ということもあり、久々に再会したお客様や設計者との



立食スタイルで開宴

19:00 に閉宴しました。

建設会社として、発信できる情報などを掲載し続け 25 年を迎えました。このような記念イベントが開催できるのも、日頃よりご愛顧いただいている多くのお客様、建築家・設計者皆様のお力添え



現場所員とも歓談

これからも、皆様の想いが詰まった「こだわり建築」を造り続け、期待に応えるではなく、超えられるよう施工技術を磨き続けます。

今後とも、末永いお付き合いをよろしくお願い申し上げます。

「S1 (仮称) 千駄ヶ谷 1 丁目」新築工事 竣工式

2月14日(金) 大安



竣工名：ソルテ千駄ヶ谷

鳩の森神社に近い所に賃貸 18 世帯の集合住宅が完成いたしました。

外断熱仕様で、特殊テクチャーで仕上げられた外壁は、街に溶け込みながらも高級感のある佇まいとなりました。

構造：RC 造  
規模：地下 1 階・地上 3 階  
用途：共同住宅  
設計：設計組織 ADH  
施工担当：能田・川和/池上チーム

詳しくは近日本紙にてご紹介予定です。

どうぞご期待ください。

「法政大学建築学科卒業制作有志展 2025」に協賛

3月1日(土)・2日(日)

今年も「法政大学建築学科卒業制作有志展」に協賛させていただきました。

学生主体の有志展という特徴を活かし、学外から著名建築家の先生をお招きして意欲溢れる作品の展示・講評会がおこなわれました。



およそ 50 名の作品が並ぶ

今年のテーマは「継」。切れた糸を2つより合わせた「つぐ」の意味を持ち、建築の世界へ飛び込んだ生徒たちが合わさり1つの糸となった今、それぞれの場へ立立つ未来を表しています。



講評会終了後。皆様お疲れ様でした

一般公開にお邪魔させていただき、それぞれの「継」のカチを見学させていただきました。

編集後記

・桜も咲き誇り、新生活がスタートしました。弊社にも、5名の新入社員が入社し、現在伊豆山研修センターにて研修の真っ只中です。来月号にて自己紹介、研修の様子をご紹介させていただきます。

(株)辰通信 Vol.301 発行日 2025年4月10日  
編集人：本間夏来/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570  
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」は WEB 上でもご覧いただけます。バックナンバーも PDF で掲載しています。スマホはこちらから →

